

micro iDSD BL の導入(14)

ーライン構成の見直しー

1. はじめに

micro iDSD BL は Sonica DAC 導入後、予備用に回っていますので、この有効活用とその他の問題も一挙に解決することを検討します。

2. micro iDSD BL の試聴計画

今回の検討事項は次のとおりとなります。

① micro iDSD BL の有効活用

Sonica DAC 導入後、micro iDSD BL が予備に回っているので有効活用する。

② CCV-5 の有効活用

Sonica DAC の S/PDIF 入力の前に CCV-5 によるリクロックを行うとリクロック周波数での Sonica DAC の受けが、理由は不明であるが、そのとおりにならないので、CCV-5 と Sonica DAC の組み合わせは保留している。従って、GPS-777 も使用の機会が少ない。

CCV-5 によるリクロックは 96KHz が上限であるが、DMR-UBZ1 からの S/PDIF 出力は 192KHz もしくは 176.4KHz までのアップサンプリングが実施できるので DMR-UBZ1 と CCV-5 との組み合わせも使用していない。

③ アンバランスアナログリベラメンテの有効活用

バランスアナログリベラメンテを Sonica DAC の引き出しに使用してアンバランスアナログリベラメンテが余ってきて、DMR-UBZ1 からの引き出しに転用してみたが [DMR-UBZ1 の活用\(3\)](#) で報告したとおり、DMR-UBZ1 からのアナログ出力の音質は満足度が低い。従って、アンバランスアナログリベラメンテの使い道を検討する必要がある。

④ USB ケーブルの繋ぎ変え

ベルリンフィル DCH など PC からの USB 出力の場合、fidata から Sonica DAC への接続から、PC から Sonica DAC への接続への繋ぎ変えが必要なので、別系統の USB 接続ラインが望ましい。

⑤ デジタルケーブルの繋ぎ変え

Sonica DAC の S/PDIF 入力は、DMR-UBZ1 からと EMT981 からのデジタル入力を繋ぎ変える必要がある。

⑥ DA3000 へのアナログ入力は、[Sonica DAC の展開\(25\)](#) で報告したとおり、バランス入力を使用しており、アンバランス入力が余っている。

⑦ DSD 対応の DAC 導入以来、96KHzPCM 対応が上限の USB-201 の使用頻度が下がっている。

以上から、次のような経路を設定することにしました。

- ① Sonica DAC への入力は、LAN 入力は別として、DMR-UBZ1 からのデジタル入力と fidata からの USB 入力専用とする。
- ② Sonica DAC から DA-3000 への入力はバランス入力とする。
- ③ micro iDSD BL への入力は、次のとおりとする。
EMT981→CCV-5 (GPS-777 クロック入力) →micro iDSD BL (デジタル入力)
PC→iPurifier2(TypeA) →micro iDSD BL (USB 入力)
PC→iPurifier2(TypeB) →USB-201 (GPS-777 クロック入力) →CCV-5 (GPS-777 クロック入力) →micro iDSD BL (デジタル入力)
- ④ micro iDSD BL から DA-3000 への入力はアンバランス入力とし、リベラメンテを使用する。

3. micro iDSD BL の試聴結果

以上により、DA-3000 への入力をバランス入力/アンバランス入力の切り替えで、Sonica DAC からと micro iDSD BL からの入力を簡単に切り替えられるようになりました。特に、GPS-777 からのクロック入力を行う CCV-5 経由の EMT981 による CD 再生の音質はその真価を発揮できています。

PC からの USB 出力については③記載のとおり、2 系統の再生が可能でしたが、若干ノイズフロアーが高いのが難点です。

4. まとめ

micro iDSD BL やリベラメンテの有効活用が図られ、切り替えが簡単になりました。

以上